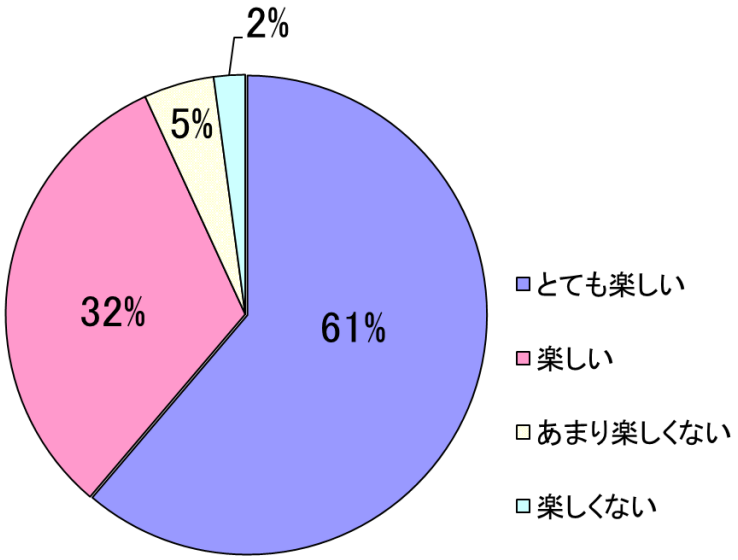
令和５年度　低学年児童分析

後期
２月実施

1. 学校生活は楽しいですか。



1. 学校生活は楽しいですか

【令和５年度】

とても楽しい	61%	93%
楽しい	32%	

【令和４年度】

楽しい	75%	95%
どちらかと言えば楽しい	20%	

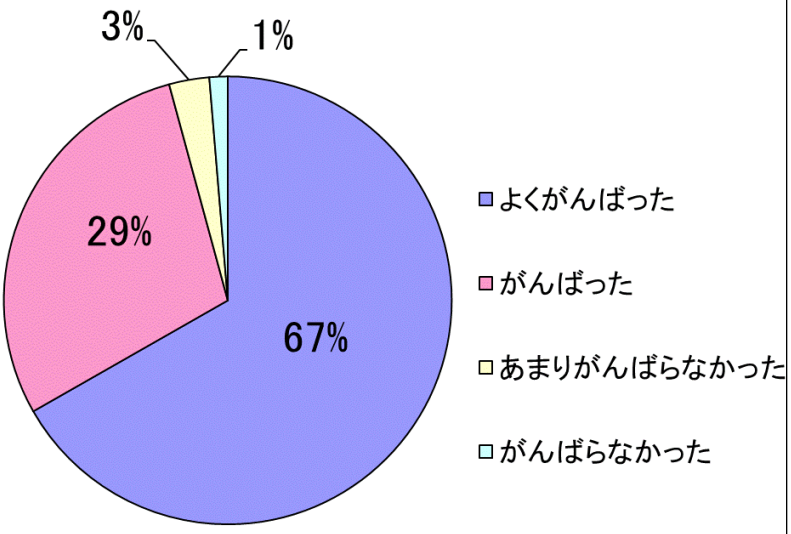
2% down

「とても楽しい」「楽しい」と回答した児童の合計は93%で、昨年度とほぼ同じ割合となった。

低学年、特に１年生は、後期に入り学校の雰囲気がよりわかり、友達も増えて「楽しい」と感じる機会が多くなってくると思われる。また、2，3年生についても、学年が上がって新しいことを学んだり、新しい友達が増えたりして、学校生活をさらに楽しむことができる機会が増えると思われる。

今後も、児童が安心して学校に通い、学校生活をより楽しむことができるように、児童理解や行事等の充実を図ると共に、学習時にも「楽しい」と感じることができるように、日々の授業改善に努めていく。

2. 当番や係の仕事をがんばりましたか。



2. 当番や係の仕事をがんばりましたか

【令和５年度】

よくがんばった	67%	96%
がんばった	29%	

【令和４年度】

よくがんばった	61%	97%
がんばった	36%	

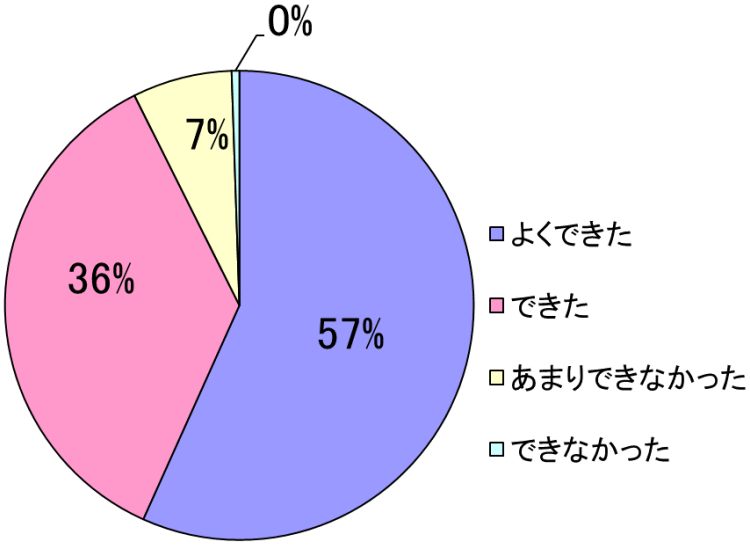
1% down

「よくがんばった」「がんばった」と回答した児童の合計は96%で、依然として高い割合の結果となった。

低学年においては、学級内や学年内における活動が主となるが、比較的小さな集団の中で多くの児童が自分の役割を果たすことができたと感じていることは、高学年に大いにつながることである。低学年で培った意欲や責任感、達成感などは、高学年になり学校全体に関わる役割を担うようになった時に、確実に役に立つため、低学年時にこのような経験を積むことはとても重要なことである。

今後も、各学級、学年における特別活動を創意工夫し、児童が意欲的に取り組むことができるように支援していく。

3、自分の健康に気を付けて過ごすことができましたか。



3. 自分の健康に気を付けて過ごすことができましたか

【令和５年度】

よくできた	57%	93%
できた	36%	

【令和４年度】

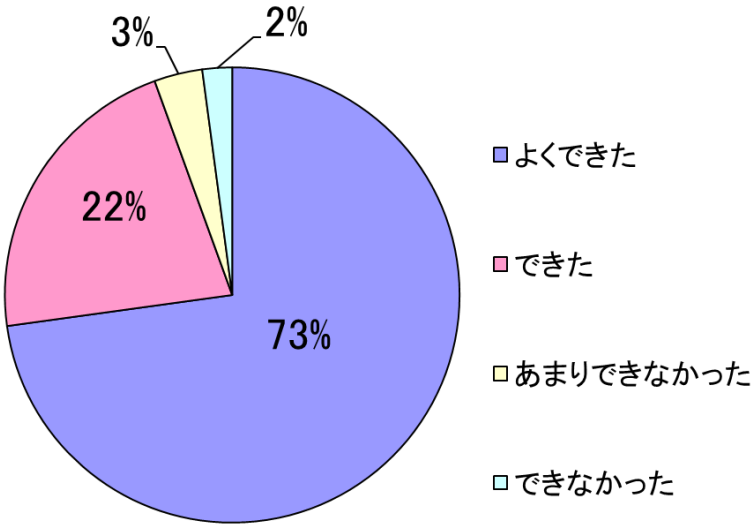
よくできた	55%	93%
できた	38%	

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は93%で、昨年度と同じ割合となった。低学年時に、日頃の生活の中で健康に配慮した生活を意識することができた、と感じている児童が９割を超えているのはとても喜ばしいことである。

今年度は、新型コロナウイルス感染予防に関する規制がほぼなくなり、コロナ禍以前の生活に戻りつつある。しかし、コロナ禍で実践してきた手洗いの励行や咳・くしゃみをする時のエチケットなどは、今後も役に立つものである。

コロナウイルスだけでなく、あらゆる感染症や病気から自分を守る必要があるため、今後も養護教諭や児童支援チームを中心に、健康に配慮した生活を送ることができるように指導を続けていく。

4. 体育の授業や休み時間には、楽しくたくさん体を動かすことができましたか。



4. 体育の授業や休み時間には、楽しくたくさん体を動かすことができましたか

【令和５年度】

よくできた	73%	95%
できた	22%	

2% down

【令和４年度】

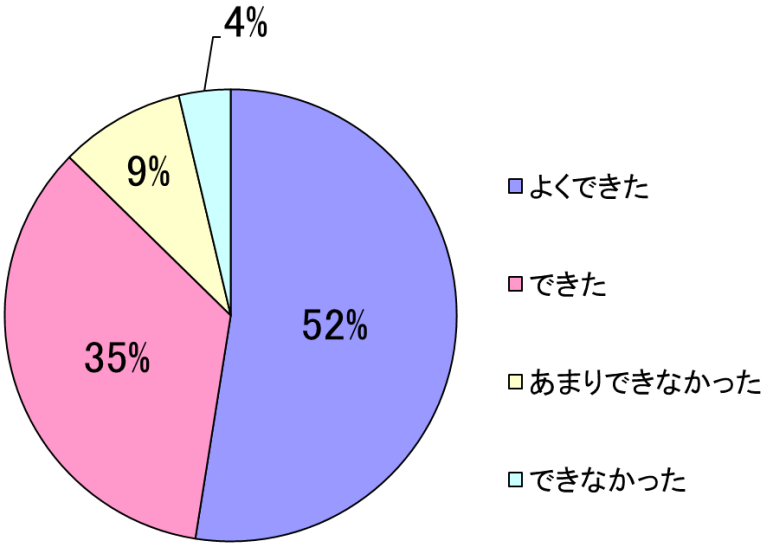
よくできた	78%	97%
できた	19%	

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は95%で、９割強の児童が「体を動かすことができた」と感じている。

中休みの様子を見ると、校庭を使用できる時にはとても多くの児童が楽しそうに運動遊びをしている姿が見られる。また、体育の授業でも、思い切り体を動かして楽しんでいる様子が見られる。

来年度からは朝の校庭開放が全学年で実施される予定もある。児童が運動する機会をさらに確保することができるのではないかと考えている。また、中休みの校庭使用についても、３学年ずつ隔日で使用しているところを改善する余地もある。さらに、体育の授業においては、児童がより充実した運動を行い、運動に親しむことができるように、授業改善を図っていく。

5. いろいろな人にあいさつをすることができましたか。



5. いろいろな人にあいさつをすることができましたか

【令和５年度】

よくできた	52%	87%
できた	35%	

1% down

【令和４年度】

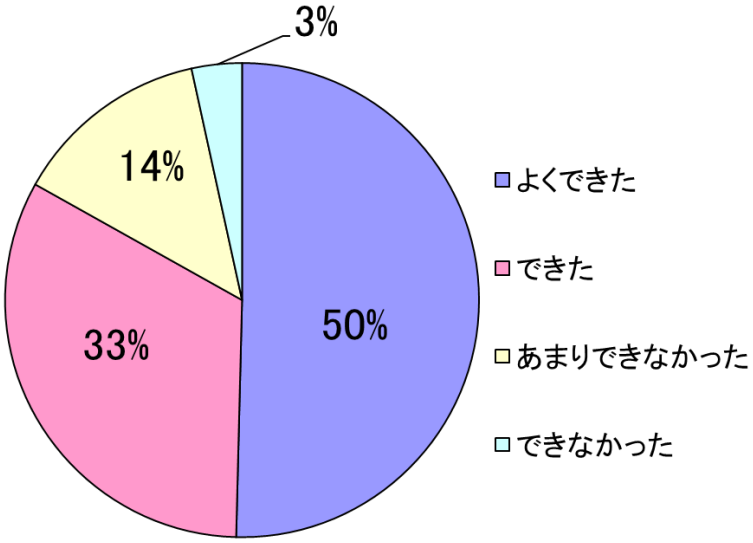
よくできた	48%	88%
できた	40%	

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は87%で、昨年度とほぼ同じ割合となった。

今年度は、5年生児童が全校に呼びかけて「挨拶運動」が実施された。低学年児童も、朝早い活動であったにもかかわらず参加していた。また、朝だけでなく校内ですれ違う際に「こんにちは」と挨拶をする児童が増えてきている。

ただ「挨拶しましょう」と伝えるだけではなく、挨拶の意義やよさについて低学年時に知っておくことが、その後、習慣として身に付くと思われる。また、大人が率先して挨拶をする姿を見せることも大切である。今後も、児童支援チームから発信する月間目標や、道徳科の学習などを通して、対教職員だけでなく児童相互や対保護者、来客に対しても挨拶があふれる学校を目指していく。

6. 困った時は、先生や友達に話すことができましたか。



6. 困った時は、先生や友達に話すことができましたか

【令和５年度】

よくできた	50%	83%
できた	33%	

2% up

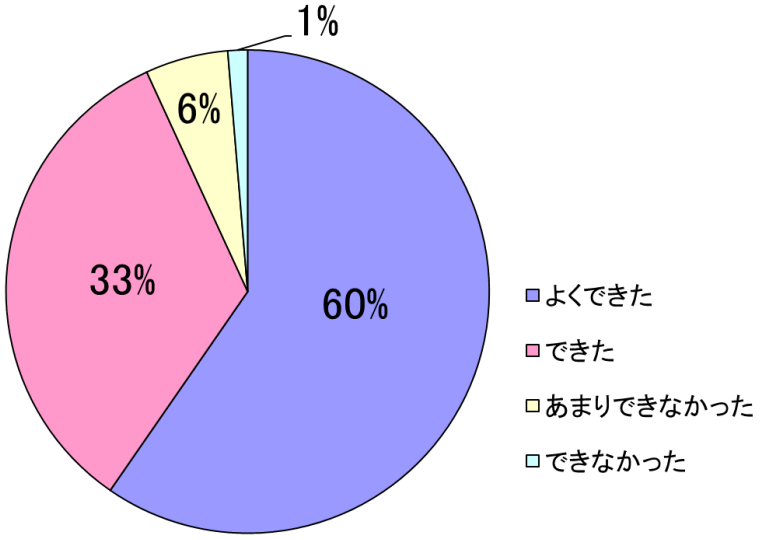
【令和４年度】

よくできた	40%	81%
できた	41%	

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は83%で、昨年度より2%増加した。

低学年時は、困ったことがあった時には何でも話す児童が比較的多いが、自分の中に留めてしまう児童もいないわけではない。そのような児童が教職員や友達に悩みを打ち明けることができるようにするためには、まず教職員が児童の変化に気付くことが重要である。日頃から児童の表情を注視し、話しかけることで、ちょっとした変化にも気付くことができる。また、教職員がそのような接し方をすることで、児童が「先生に伝えたい」「先生なら助けてくれる」という思いになることを期待したい。さらに、担任は児童の悩みを発見した時に、学年担任や支援教育コーディネーター、管理職にも報告し、学校全体で解決に向けて取り組むことが重要である。そうすることで、児童がもし悩みを抱いても、「先生に相談すれば解決できる」という意識をもつことを期待したい。今後も、コーディネーターや児童支援チームを中心に、児童が相談しやすい環境づくりに努めていく。

7. 学校やクラスの約束を守ることができましたか。



7. 学校やクラスの約束を守ることができましたか

【令和５年度】

よくできた	60%	93%
できた	33%	

【令和４年度】

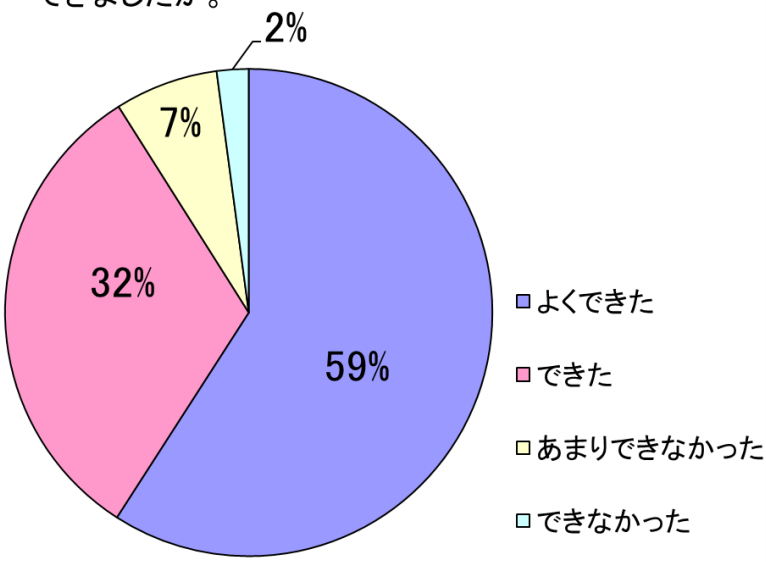
よくできた	60%	93%
できた	33%	

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は93%で、昨年度と同じ割合となった。依然として９割を超える児童が「約束を守っている」と感じることができている。

低学年時に「約束を守る」という態度を育むことはとても重要である。そのためには、ただ単に「守りましょう」と伝えるのではなく、約束を守ることの意義や、守ることでどんなよいことがあるのか、などについて児童自身が考え、理解する必要がある。道徳科の学習の充実を図ると共に、日頃の学校生活のさまざまな場面で、「約束を守る」ということについて取り上げ、児童が理解することができるように努めていきたい。

引き続き、児童支援チームを中心に学校の約束事の提示の仕方や内容について検討していく。

8. 困っている友達がいたら、助けてあげることができましたか。



8. 困っている友達がいたら、助けてあげることができましたか

【令和５年度】

よくできた	59%	91%
できた	32%	

3% down

【令和４年度】

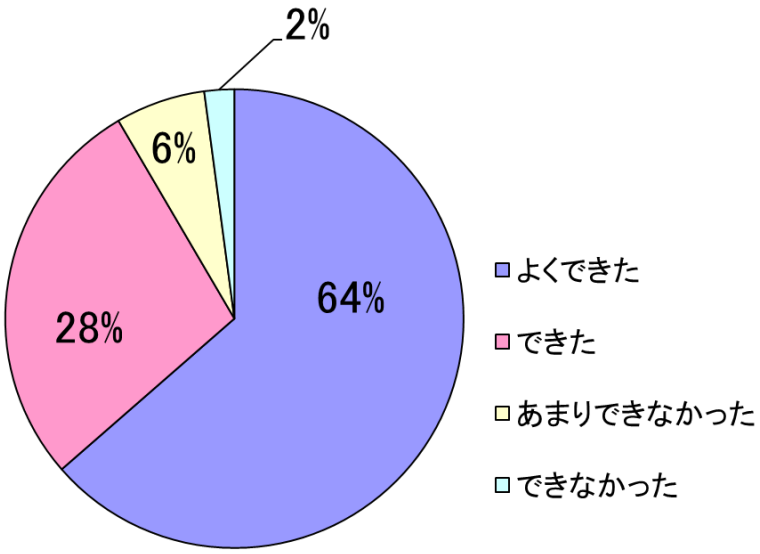
よくできる	62%	94%
できる	32%	

「よくできる」「できる」と回答した児童の合計は91%で、昨年度とほぼ同じ割合となった。

「助けてあげる」という形について、それが直接何かをしてあげることだけでなく、「大人に伝える」という行為も友達を助けることになるということを、低学年時に指導する必要がある。友達の変化に気付くだけでも、それは立派な「助ける」であることを伝えていきたい。

今後も児童支援チームを中心に、助け合うこと、協力することの大切さを月間目標等で取り上げていくと共に、道徳科の学習や日々の学校生活の中でも児童自身が気付くことができるような指導の工夫に努めていく。

9. 授業では、あきらめずに最後までがんばることができましたか。



9．授業では、あきらめずに最後までがんばることができましたか

【令和５年度】

よくできた　64%
できた　28%
92%

【令和４年度】

よくできた　63%
できた　31%
94%

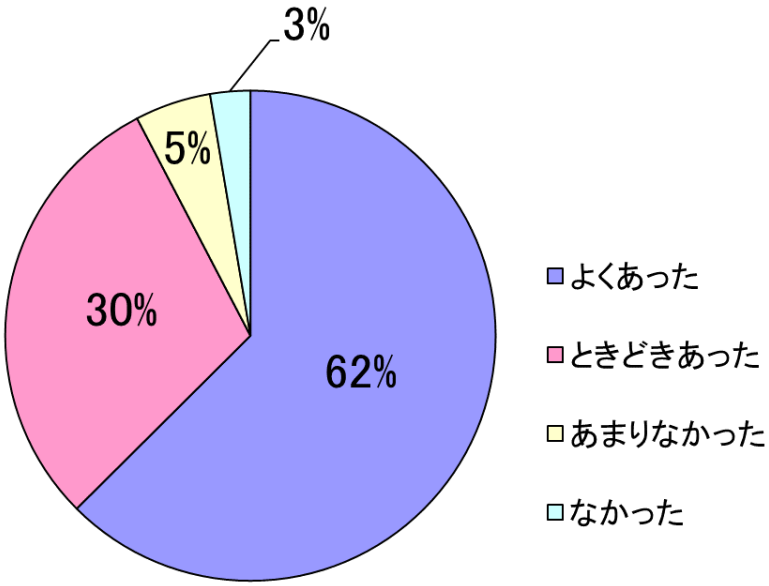
2% down

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は92%で、昨年度とほぼ同じ割合となった。

課題解決学習は、まず児童が「なぜだろう」と疑問を抱いたり、「こうしてみたい」という思いをもったりすることから始まる。特に低学年においては、このような思いをもちやすい傾向にある。途中で飽きることなく何度もやってみることでその思いが実現されると、それが次への意欲となる。

このような学習の流れをより充実させるために、授業力向上チームを中心に日々の授業改善を図る。児童が課題に楽しみながら取り組み、最後まで追求することができるような教育計画を進めていく。

10. 授業中、「わかった」「できた」という気持ちになることがありましたか。



10. 授業中、「わかった」「できた」という気持ちになることがありましたか

【令和５年度】

よくあった　62%
時々あった　30%
92%

【令和４年度】

よくあった　65%
時々あった　30%
95%

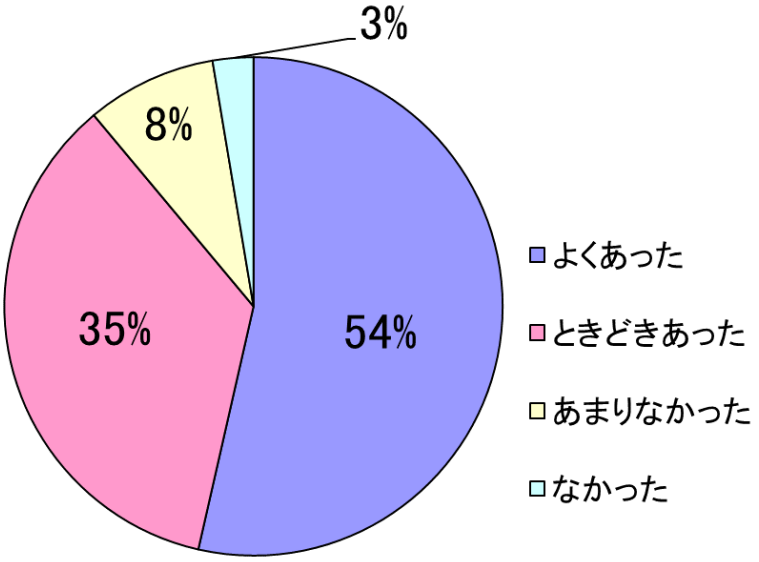
3% down

「よくあった」「時々あった」と回答した児童の合計は92%で、昨年度より3%減少した。

前項と同じく、児童が根気よく課題に取り組んだ末に「わかった」「できた」という達成感や満足感を味わうことができるように、さらなる授業改善を図っていく必要がある。そのためにはまず、児童が課題をもつことが重要で、その課題に対してどのような学習過程を経ていくかを、教師は日頃の授業の中で常に考えていかなければならない。

児童の「わかった」「できた」を引き出すために、今後も授業力向上チームを中心に授業改善を進めていく。

11. 友達に、「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言ったり、友達のよいところを見つけたりしたことがありましたか。



11. 友達に「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言ったり、友達のよいところを見つけたりしたことがありましたか

【令和５年度】

よくあった	35%	89%
時々あった	54%	

【令和４年度】

よくあった	58%	92%
時々あった	34%	

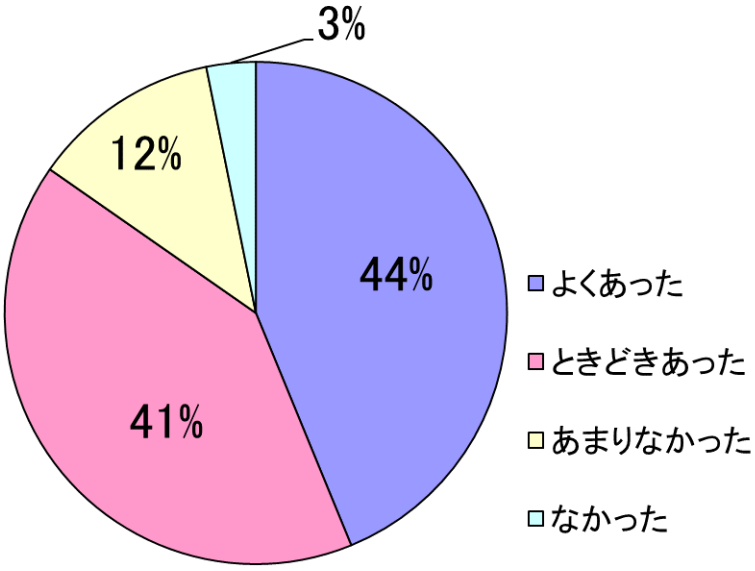
3% down

「よくあった」「あった」と回答した児童の合計は89%で、９割を切る結果となった。

友達のよいところやがんばりに対して、前向きな言葉を素直に言えることは、低学年時に習慣的に見に付けてほしいところである。お互いが努力や成長を称え合い、常に前向きな気持ちで学校生活を過ごしてほしいと願っている。

教職員も、児童に対してそのような言葉がけをするように心がけている。児童のちょっとした変化に気付き、「いいね」「よくできたね」などの言葉をかけるようにしている。この雰囲気が児童相互に広がり、お互いを尊重しながら前向きな言葉が常に行きかう学校づくりを目指していく。

12. 先生や友達に、「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと褒められたり、認められたりすることがありましたか。



12. 先生や友達に、「すごいね」「がんばったね」「いいね」などとほめられたり、認められたりすることがありましたか

【令和５年度】

よくあった	44%	85%
時々あった	41%	

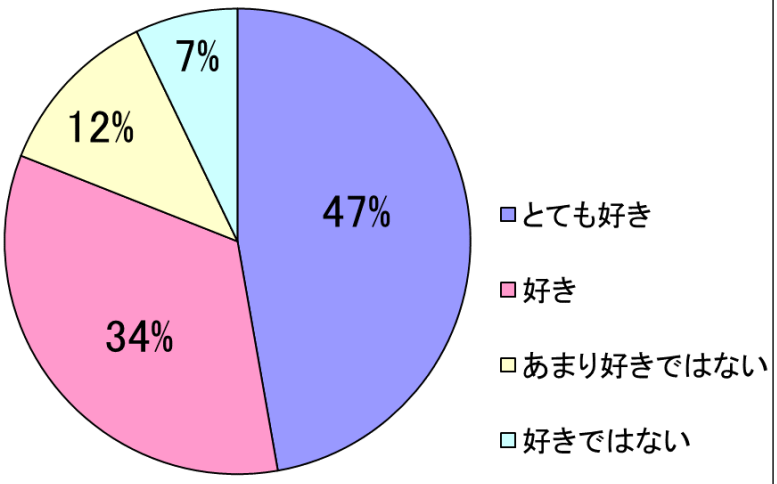
【令和４年度】

よくあった	43%	85%
時々あった	42%	

「よくあった」「あった」と回答した児童の合計は85%で、昨年度と同じ割合となった。

前項と同じく、教職員はこれまでも児童に対して前向きな言葉がけをするように心がけている。それが児童相互に広がっていくことを期待したいが、それに加えて、児童間でそのような言葉をかけている場面を見た際に、教職員がそれを価値付けることも必要であると感じる。「すてきな言葉が言えたね」「あたたかい言葉だね」など児童を価値付けることで、前向きな言葉を伝えることはよいことだということを低学年時に浸透させていく。

13. あなたは、自分のことが好きですか。



13. あなたは、自分のことが好きですか。

【令和５年度】

とても好き	47%	81%
好き	34%	

【令和４年度】

とても好き	47%	78%
好き	31%	

3% up

「とても好き」「好き」と回答した児童の合計は81%で、昨年度より3%増加した。

「自分のことが好き」というのは、学校教育目標である「自己肯定感」と直接的につながるものである。低学年時にこの思いをもつことはとても重要で、この思いをもち続けることが「自己肯定感」として児童一人一人の中に根付いていくと考えられる。

この思いを高めたりもち続けたりするためには、児童が自分に自信をもつことが必要である。自分がやったことや言ったことが肯定されりこと、また、児童が自分自身で考えて行動したプロセスを価値付けられることが自信につながる。

児童が自信をもって生活を送ることができるようになるために、前項と重なるが、教職員は前向きな言葉がけを常に心がけていきたい。常に前向きな雰囲気をつくることで、児童が「自分はがんばっている」「自分はできる」と思えるような学校づくりを目指していく。